

# スペシャルセッション

平成20年1月17日

< JGN2+AKARI シンポジウム 2008 >

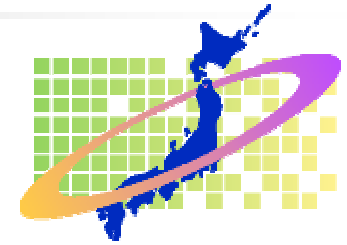
## JGN2の地域貢献及び人材育成

利用促進部会長

相原 玲二

# 利用促進部会の活動

地域協議会等と協力し、地域に密着した研究開発活動促進、地域間交流の活発化、地域内連携強化等を通してJGN の利用促進を図る。

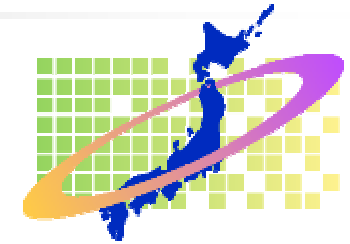


- ✓ 各地域の実情を調査し、改善を図る
- ✓ 利活用事例の情報交換
- ✓ 利用促進賞
- ✓ PAP、PNWの設置・活用
- ✓ JGN 後継プロジェクトに向けた検討
  - 地域における研究交流活性化のありかた
  - ICT人材の幅広い育成方法

JGN II

# 地域における研究交流の活性化(1/2)

地域情報ネットワークとの相互接続や地域に密着した研究開発活動により、地域間交流の活発化、地域内連携強化等、地域活性化に貢献した。



## ✓ 地域における研究活動の活性化

全国のリサーチセンター(RC)・地域協議会では、地域の大学や企業の研究者、自治体等と連携することにより、地域に密着したネットワークの研究活動を進めた。

(RCワークショップ、地域協議会による利用促進部会の活動、など)

JGN II

## ✓ 自治体間の連携による地域間交流の活発化

情報ハイウェイを運用している自治体のアプリケーションシステム(教育・防災等)の相互接続により、システム間の連携方策等に関する情報交流が活発化した。

(JGN2 - 地域情報ハイウェイ相互接続をベースとした自治体による研究プロジェクト)



## 地域における研究交流の活性化(2/2)

### ✓ 地域における産・学連携による研究交流

全国レベルの広域な実証実験環境に企業や大学が参加し、共通の研究テーマに基づいた研究活動を通して交流を図るとともに、数多くの研究成果が生まれた。

(次世代インターネット技術の研究コミュニティ / 全国の地域ISP関係者による研究プロジェクト)

### ✓ 地域内連携によるICT産業の活性化

地域において大学、企業、自治体が連携して研究活動・実証実験を行い、これらの研究成果に基づいた特許化・製品化が実現し、地元産業の活性化が図られた。

(自治体と地元企業、あるいは大学と地元企業が連携した研究プロジェクト)

# ICT人材育成への貢献

ネットワークの構築・運用・研究開発を通して、研究開発のリーダーの輩出やICTエンジニアリングの育成とともに、ICTを活用した教育による若い世代への啓発に大きく貢献した。



## ✓ プロジェクトには数多くの研究者が参加

4年間でのべ1,800人を超える研究者が参加。大学を中心に企業や自治体からも多くの研究者が研究開発・実証実験に従事し、技術スキルの向上にとどまらず、技術を活用する能力の向上にも寄与した。

## ✓ 今後の先端研究を担う若い世代の人材育成

IPv6を利用したコンテンツ配信実験等を、イベント会場においてデモンストレーションすることで構築・運用技術を習得した。

(IPv6マルチキャスト相互接続検証実験、など)

また、IPv6を用いたユビキタス社会を想定した実験教育環境において、工業系高等学校などの生徒が実際に情報端末を作成し、具体的にどのように実現可能であるかを体験することで、若い世代への育成にも貢献した。

(工業系高等学校におけるユビキタス社会実験プロジェクト)

